

土を使う取組

ストックヤードの整備

静岡県交通基盤部建設経済局

技術調査課

- ◆手軽に登録・情報検索
- ◆無料で使用可能!!



静岡県建設発生土マッチングシステム
Shizuoka Surplus Soil Matching System

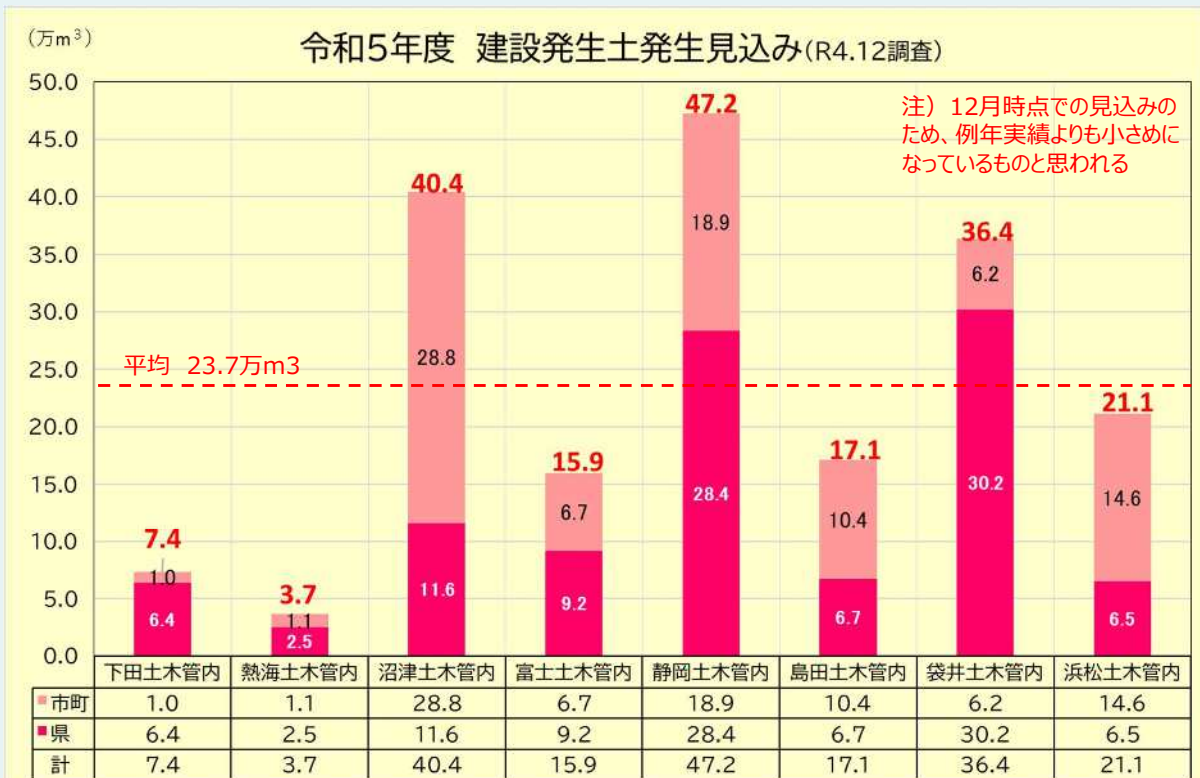
アクセスは
こちら



ストックヤードの整備

1 令和5年度 建設発生土発生見込み(R4.12時点)

- R5も県工事で例年同様100万m3以上、市町工事でも90万m3弱の土砂が発生する見込み。
- 特に沼津・静岡・袋井土木事務所管内で発生量が多く、工事への影響が懸念される。

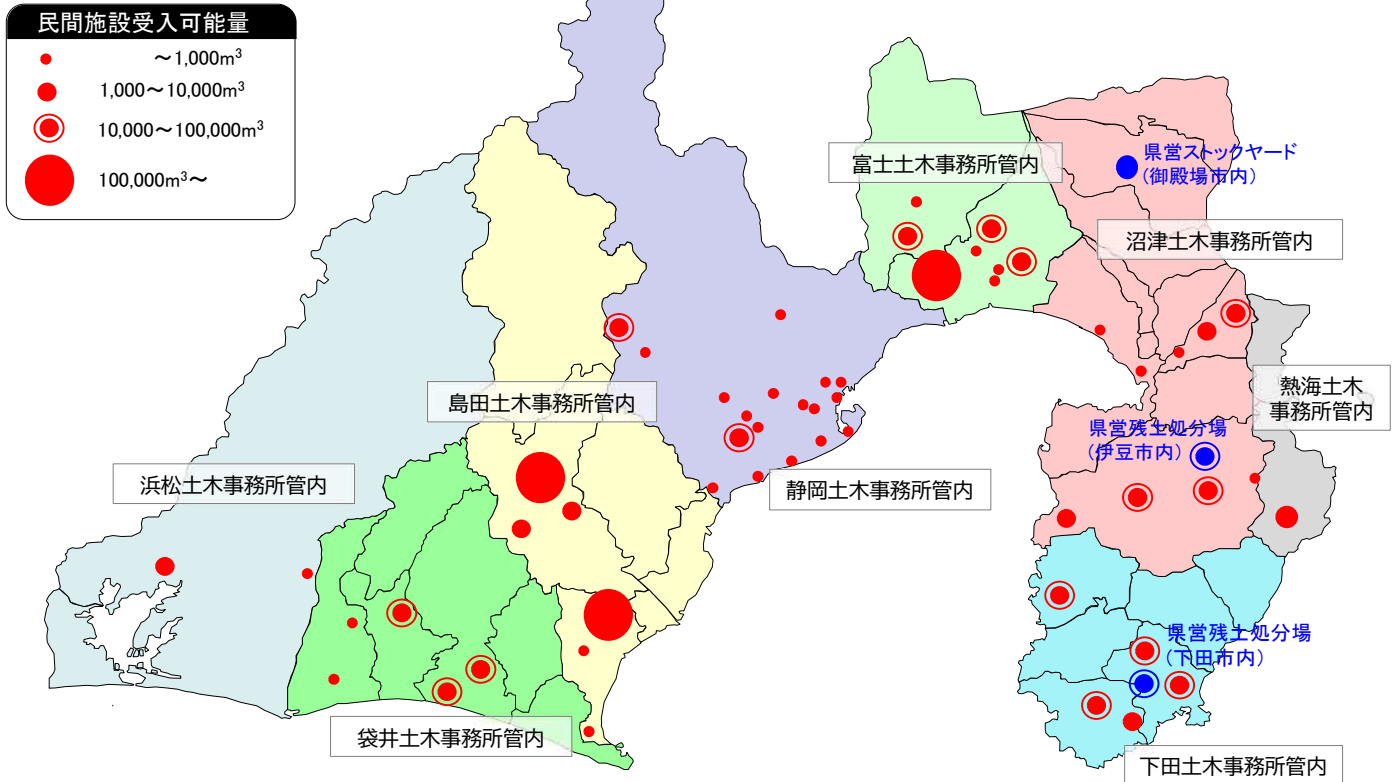


計
87.7
101.5
189.2

ストックヤードの整備

建設発生土受入施設位置図

(当課で把握する施設)



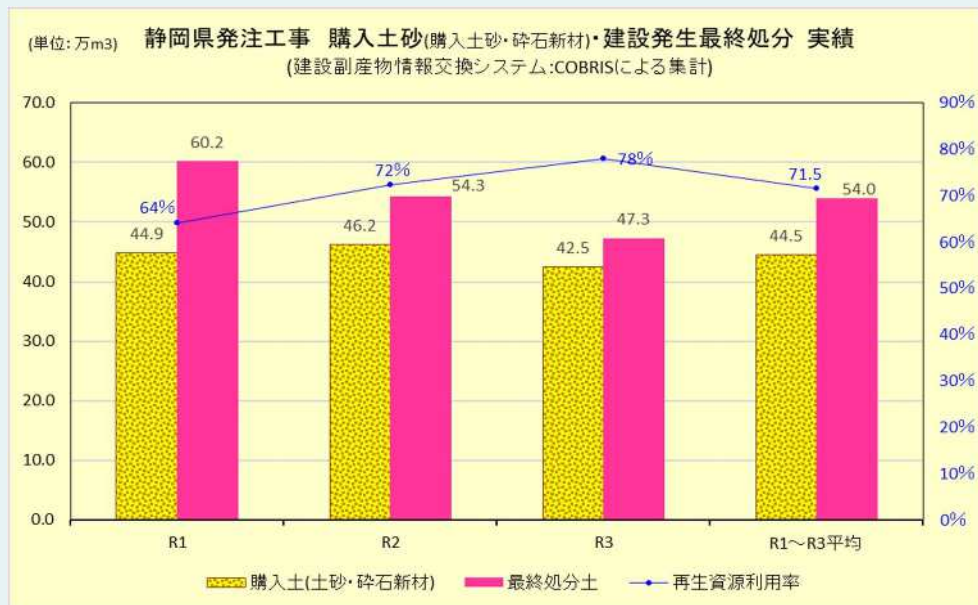
※R4.10時点の情報を反映 (現在受入停止している施設有)

3

ストックヤードの整備

2 建設発生土と新材購入状況

➤ 建設発生土の最終処分を行っている一方、**盛土新材を相当量購入**している現状がある。

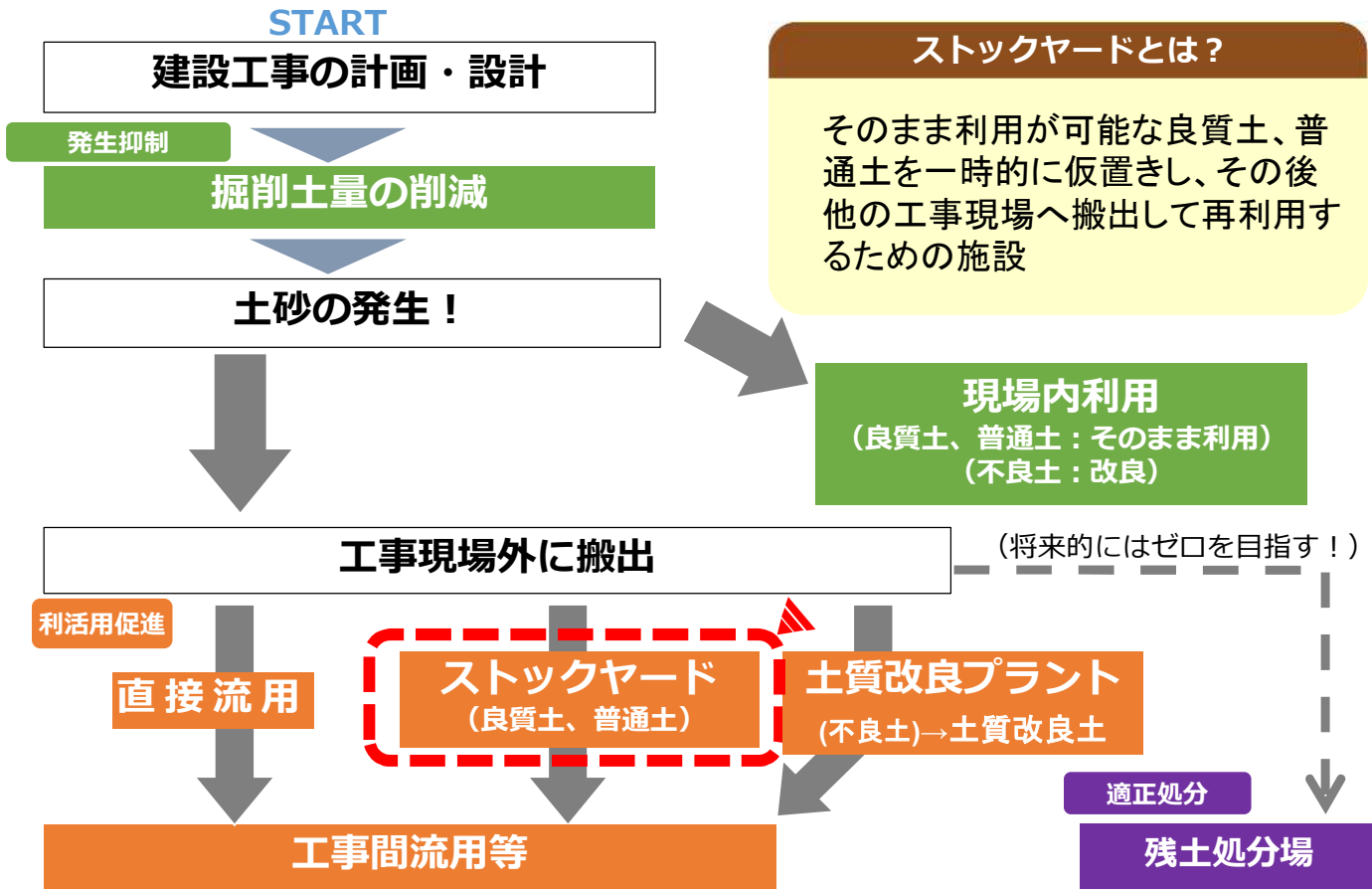


購入土により盛土している分について、ストックヤードを活用すれば**発生土に置き換えられる余地がある**

4

ストックヤードの整備

3 スtockヤードとは



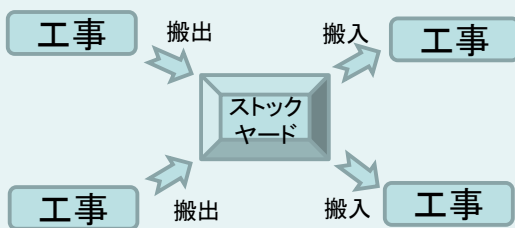
5

ストックヤードの整備

4 スtockヤードの種類

中継地型ストックヤード

・多数の工事が土の搬出先・搬入先として活用するストックヤード

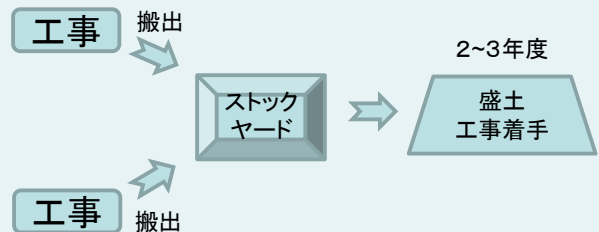


・土の利用調整を目的としているので、搬入・搬出等の計画的運営ルールのもと搬入・搬出の自由度が高い。

▶ 県内各地域での確保を目指す

先行盛土型ストックヤード

・面整備や大規模事業等で2~3年後に着手する予定の盛土工事用に予め土を搬入する区域を活用したストックヤード。



・受入側工事の工程、進捗に影響される。
・計画的な土砂搬入が担保されれば受入側工事側としてもメリット大。

▶ 今後土地利用事業と連携し確保を図る

6

ストックヤードの整備

ストックヤードの効果

- ・時間的制約の解消
- ・土質条件適合理化
- ・搬出搬入条件の解消
- ・調整手間の解消
- ・実績数量の把握

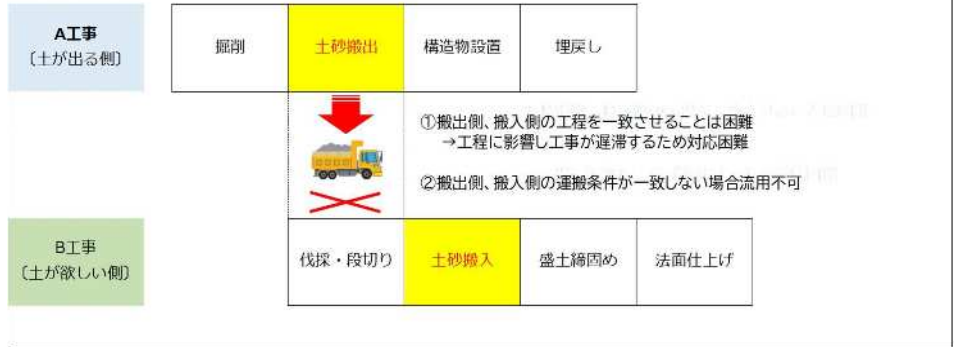


計画的かつ
自由度が高い
現場運営の実現



- ・発生土利活用推進
- ・コスト縮減
- ・環境負荷低減
- ・循環型社会構築
- ・健全な企業経営
- ・不法盛土対策

■ストックヤードがない場合



■ストックヤードがある場合



ストックヤードの整備

5 令和5年度の取組

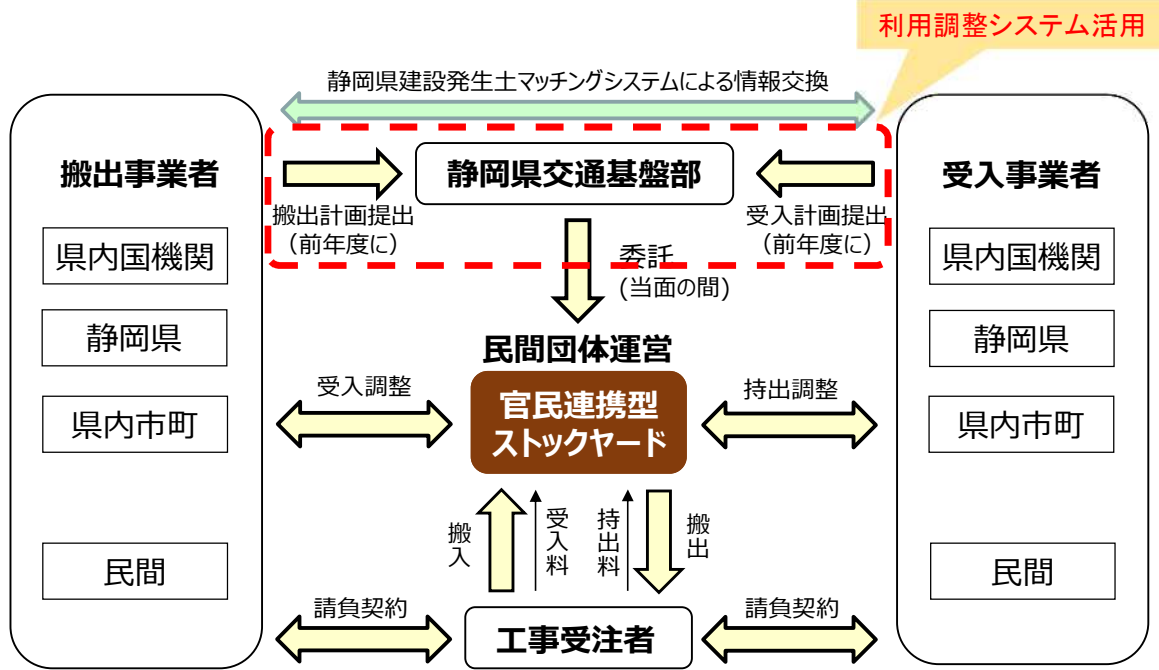
項目	内容
➤ スtockヤードの整備計画策定	<ul style="list-style-type: none"> ・各地域における候補地調査・選定 ・管理運営手法の検討、概略設計
➤ モデル事業の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・東・中・西部の3箇所にストックヤード設置 ・設置したストックヤードを運営 ・管理運営手法や利活用への効果を検証
➤ 利用調整システム検討	<ul style="list-style-type: none"> ・搬出・受入れの利用調整を行うためのシステム検討

【R5スケジュール】

項目	1Q	2Q	3Q	4Q
ストックヤードの整備計画策定	→			
モデル事業の実施（3箇所程度）			→	
利用調整システム検討			→	

ストックヤードの整備

6 官民連携ストックヤードの想定スキーム



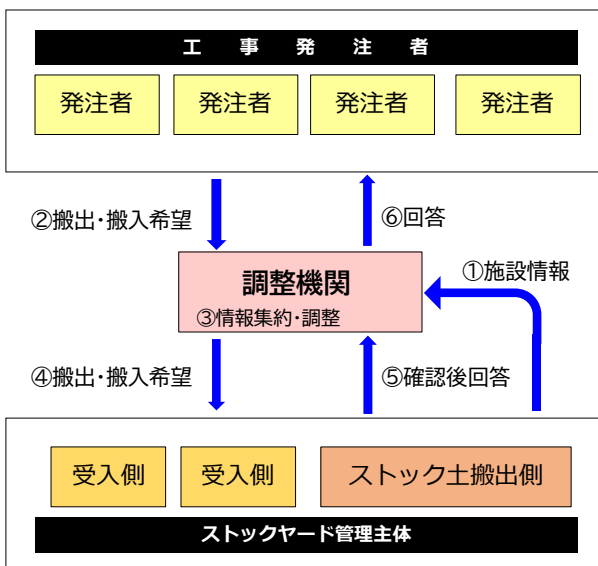
- スtockヤード用地は公共用地等を想定、施設整備は県、管理運営は民間団体が主体となって行うことを想定
- 民間団体としては、各地区建設業協会や地域の建設業者による組合等を想定
- スtockヤードの管理運営費は、将来的に利用料収入により賄う
- 搬出・受入れの利用調整はシステムを活用して前年度に行う

ストックヤードの整備

7 利用調整システムとは

- 東京都や茨城県などの先進県では、建設発生土の搬出、受入れ情報の調査(土量調査)を、利用調整システムを用いて前年度のうちに実施しており、工事発注時には調整を踏まえた搬出先(搬入元)を明示し、円滑な工事執行が図られている。
- 本県でも同様なシステムの導入を検討していく。

➤ 利用調整システムによる調整



➤ 計画的な搬出、受入れ情報の把握と工事発注

